

北九州市自然環境保全基本計画

基本理念

都市と自然との共生

～「都市のなかの自然、自然のなかの都市」の実現を目指して～
豊かな自然環境と生物の多様性を保ちつつ、
新たな産業都市として持続的な発展が可能な都市づくりを目指す。

基本目標

多様な自然環境の保全

市民が育む自然

身近に自然を感じる都市づくり

市民と自然とのふれあいの推進

自然・生物に関する情報の整備

計画の特徴

市民、NPOと一緒に
作り上げて進めていく計画

都市政策、産業政策、農業
政策等の考え方を組合せた
総合的な自然環境保全基本
計画

自然環境保全基本計画は
政令市では初

ほたる館



〔施設外観〕



〔実験水路・せせらぎ水路〕

ほたるを中心とした20年に渡る地元市民の水辺環境保全活動を支援する拠点施設を整備。展示室やほたる研究室、大型生態水槽、実験水路等により、水辺環境の情報収集や発信に加え、水生生物や生息環境について学習、研究等ができる。

開館 平成14年4月

森林吸収源対策

響灘・鳥がさえずる緑の回廊創生事業(若松区)

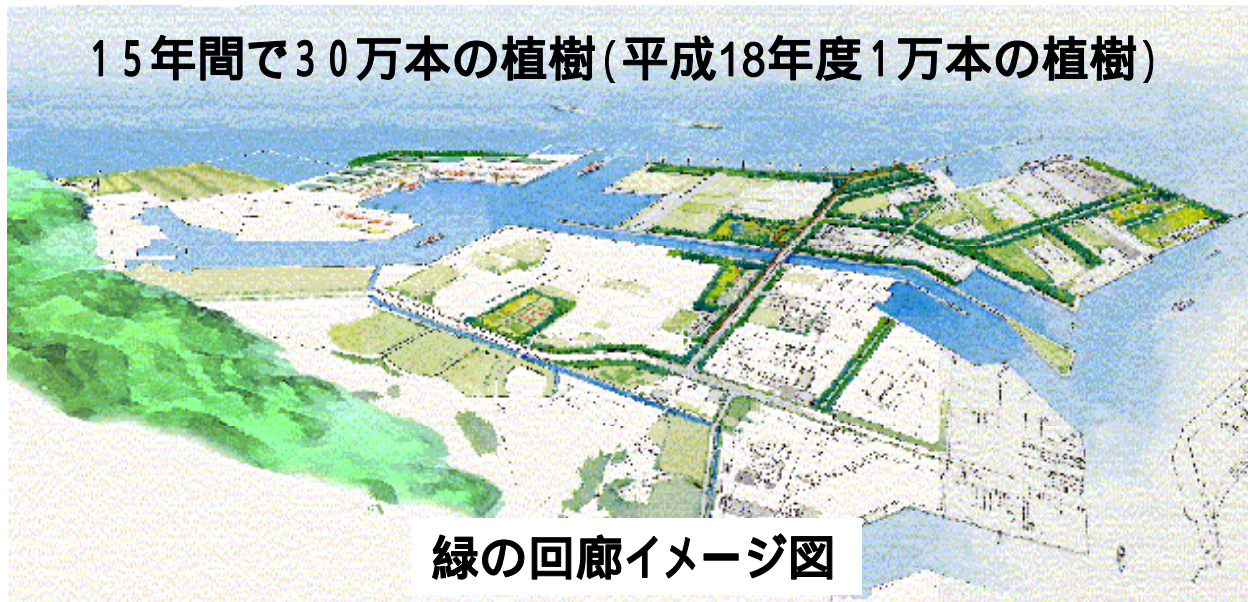


市民・企業・NPOによる植林の様子



植樹の状況

15年間で30万本の植樹(平成18年度1万本の植樹)



緑の回廊イメージ図

高齢化対策と低炭素型都市構造

2007年 高齢化率30%超の「町丁」数は、全体の28%

2030年 北九州市全体の高齢化率 32.5% (25万人)

「歩いて暮らせるまちづくり」の必然性

- ・住宅や公共施設、福祉施設などを集約
- ・自転車専用レーン、障害物除去、パークアンドライド、駐輪場
- ・コミュニティバス、バリアフリー、次世代型路面電車(LRT)？
- ・公共交通、軌道系インフラの存続不可欠

温暖化対策 + 高齢化対策

環境首都総合交通戦略策定へ

ビル、マンション、住宅等のエネルギー対策

- ・省エネ性能基準(CASBEE)導入、再生可能エネルギー導入

- 1 . 公害対策の経験
- 2 . 環境国際協力の歴史
- 3 . エコタウン事業とその発展
- 4 . 環境首都グランドデザイン
- 5 . 低炭素社会に向けた取り組み
- 6 . 環境人財育成
- 7 . アジアとのWIN-WIN関係へ

環境学習施設・フィールドのネットワーク



環境ミュージアム



エコタウンセンター



いのちのたび博物館



リサイクルプラザ



水環境館



到津の森公園



山田緑地



平尾台自然の郷



電源開発



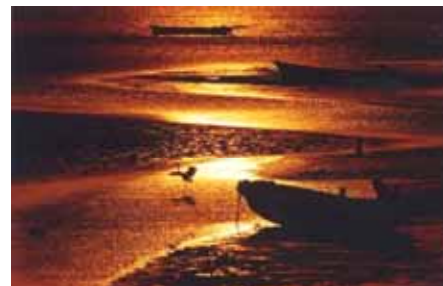
リバーウォーク(省エネ等)



風力発電



曽根東小(学校エコ改修)



曽根干潟



合馬の棚田



国立公園 や 国定公園

